港南中だより

No.7
令和2年10月号
港区立港南中学校

校長　佐々木　希久子

秋の気配が色濃くなってきました。

つい最近まで本当に暑い日が続いていましたが、お彼岸を過ぎたころから急に涼しくなりました。「暑さ寒さも彼岸まで」とはよく言ったものです。

秋と言えば紅葉でしょうか。実際にはまだ先でしょうが、紅葉狩りが懐かしくなるころになりました。紅葉と言えば、百人一首にもとても美しい歌があります。

「小倉山(おぐらやま)　峰の紅葉(もみじ)葉(ば)　心あらば　今ひとたびの　みゆきまたなむ」

作者は藤原忠平(ふじわらのただひら)です。この歌は、忠平が宇多天皇の言葉を歌にして、息子の醍醐天皇に伝えたものと言われています。

宇多天皇は小倉山の大変美しい紅葉の景色にとても感動して、息子の醍醐天皇にもぜひ見せてやりたいとつぶやいたそうです。自身が感動した風景を息子にも見てほしいという温かな心が感じられます。それを聞いた醍醐天皇も笑顔になったのではないでしょうか。

日々努力

わたしたちは、日々多くのことを学んでいます。学ぶことと身に付くことはおそらく異なります。重要語句を頭の中に詰め込んでも日にちが経過すると忘れてしまいます。「学んだ」とは、理解する、考える、試す、記録する、分析する、意見交換する、まとめる、自己評価するなど、こうした一連のことを複数回繰り返してこそ言えるのではないかと思います。

様々なことに対して一つ一つ取り組んでいくのはとても大変ではないかと思います。だからこそ、日々努力を重ね、一つ一つ積み上げていくことが大切であり、そうしてこそ、学びは身に付くものと考えます。

努力は苦手、すぐ飽きて他のことがしたくなる人もいるかもしれません。時には休みたいこともあります。休養は必要です。そして、休養したら戻りましょう。つらくとも行動することが大切です。その、粘り強い心、行動力が自分を成長せしむるものです。

中学生は義務教育の最終段階です。社会にでるための仕上げをする段階です。誰もが努力し続けることの大変さと価値を中学校で学びます。失敗や思い通りにいかないことのつらさも、また、学びます。

一つ失敗して、一つ自信をなくして、一つ上手くいって、また、失敗する。その繰り返しが自らを成長させます。自信は最後までつかないかもしれませんね。無我夢中で過ごし、気が付いたら卒業式で、「いろんなことがあった」「楽しかった」「いやなことも結構あったな」「なんか、いつのまにか過ぎてた」ということも。

でも、そうして笑顔と涙が混じって卒業していくことこそ成長であり、学びの証であると、そう思うのです。

SDGs
誰もが幸せな世界を目指して、
できることを考え、行動していきましょう。